

研究指定校における取組

研究指定校名 : 富士見町立本郷小学校

1. 学校の概要

学校名	富士見町立本郷小学校
学級数	9学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全児童数：206人（平成31年2月4日現在）
URL	http://hongo-e.suwa-ngn.ed.jp

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

「自分も人も大切にできる子どもの育成」

～共に認め合い、学び合う子どもの育成をめざして～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本郷小学校は八ヶ岳山麓の雄大な自然に囲まれた標高1080mという高地にある。

そうした環境の中、積極的に自然に浸りこみ、遊びに興じる姿が多くみられる子どもたちである。その豊かな環境の中で、児童は保護者や地域の方々に温かく見守られて生活している。将来を担う子どもたちに対する地域の方々の期待は大きく、入学式や卒業式、音楽会や運動会にはたくさんの方が見に来て下さっている。また、乙事・立沢・新田・桜ヶ丘の4つの地域での結びつきが強く、諏訪の奇祭と呼ばれる「御柱祭」、地域ごとの伝統的な行事や、地域で昔から続いている活動にも、たくさん子どもたちが参加している。親同士も本校出身の方が多く、結びつきが強い。

本校児童の実態をみると、ほとんどの児童が同じ保育園から入学してくるうえに、ほぼ単級であるために、6年間以上同じ友だちと一緒に生活を過ごすこともある。お互いよくわかり合っていて仲が良いが、その一方でその関係性に課題もある。その解決に向け、また児童が豊かな人権感覚を身につけられるよう、以下のような課題の解決を目指し、研究を深めていきたいと考えた。

一つ目の課題は、子どもたちの友だちに対する先入観が強く「Aさんはこのような人である」という固定観念をもっていて、それを変えていく必要があるということである。インクルーシブ教育の視点や学級ゲームなどを取り入れ、成長しつつある友だちのよさを意識して気づけるように日々の活動や授業を工夫していきたい。「友だちの良さを知ってうれしかった」「私のことを認めてくれた」という感想に触れ、友だちの新たな良さに気付く喜びと、友だちに自分を理解してもらえる喜びを味わう中で、友だちに対する見方を変えていく過程を大切に記録し、省察していきたい。

二つ目の課題は、子どもたちが人権にかかわる知識をもち、日常の生活の中で、実感して実践するところまでに高めていくことである。「こうすることがよい」「こうすればみんなが気持ちよく過ごせる」「こう言えば喜ぶだろうな」という思いはもっていても、実際の生活の中では「まずは自分」という意識が強く、自分が良ければ、自分が損をしなければ…という、自分本位な言動をとる子どもみられる。そのことで友だち同士のトラブルが起こることも多い。またそうした毎日の生活の中で、トラブルを避けるために、一歩引いたところで活動をしている子どもたちもいる。日々の学級での活動、姉妹学級による活動や児童会縦割り班による活動など学ぶべき場所はたくさんある。トラブルを乗り越えながら、一緒に活動していく中で、どう言動することが助け合うことにつながるのか体感できる場もたくさんある。互いの考えの違いを乗り越え、一緒に創り上げていくために、どう折り合いをつけていくのかなど多くのことを学ぶことができる。そうした体験的な活動を通して、様々な考えの違いを理解し合い助け合いながら実践していく力を培っていきたい。

三つ目の課題は、教師の指導方法の工夫と改善である。人権教育の視点から、教科学習をはじめとする全教育活動を見返し、人権教育の指導計画を再構築していきたい。また本校の特色である、姉妹

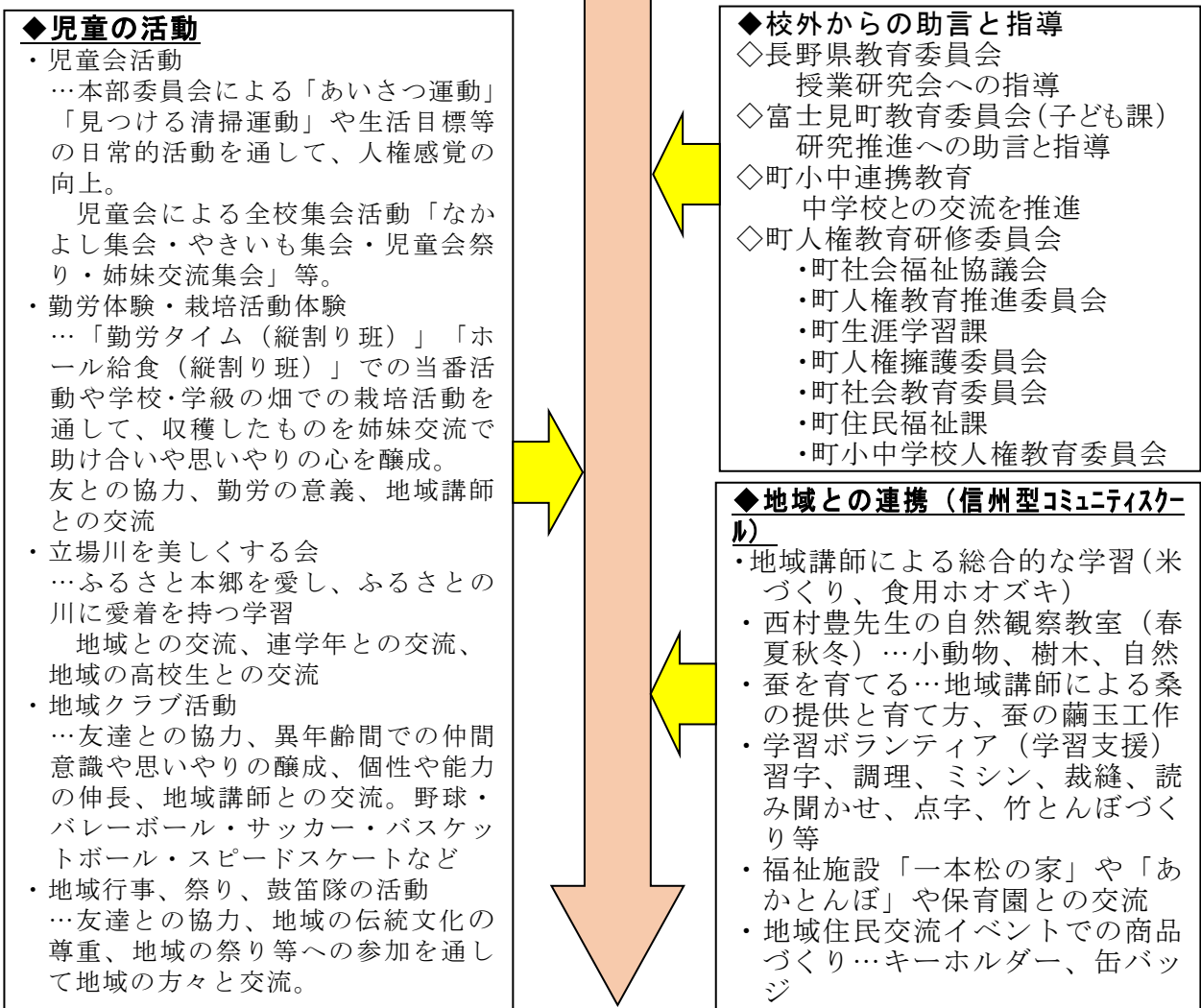
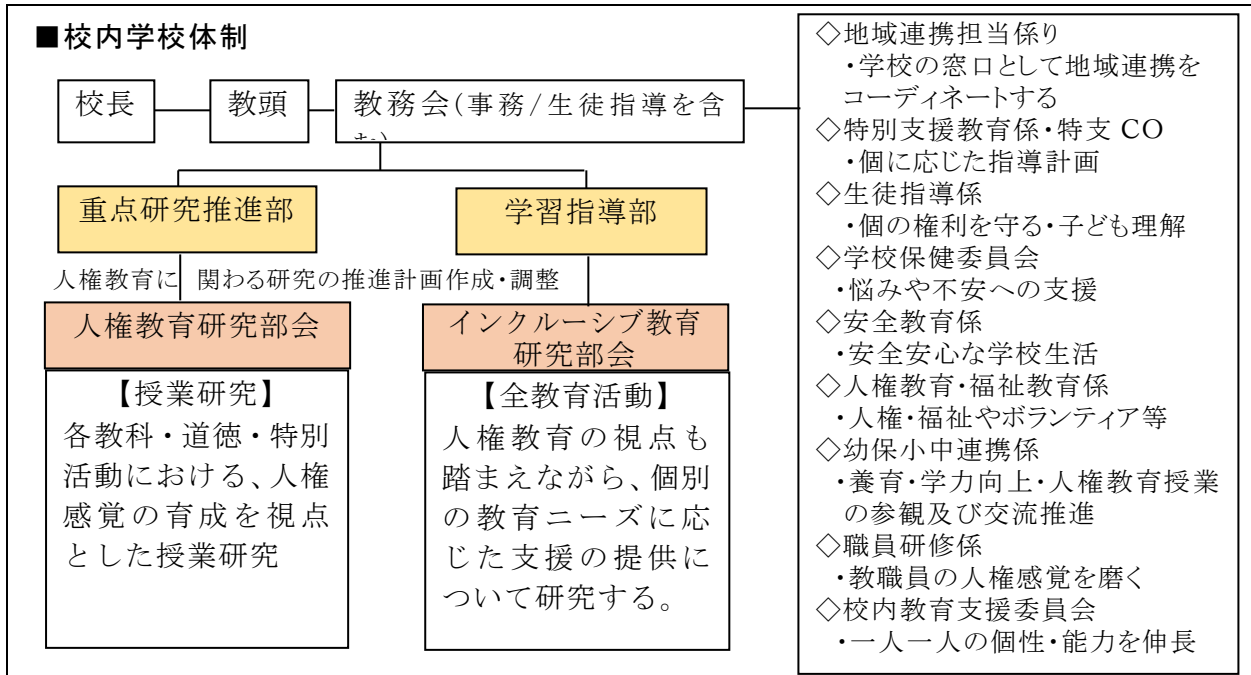
学級や児童会・縦割り班の交流活動，広い田畑を利用した勤労生産活動などを人権教育の視点から改めてとらえ直し，活動展開を工夫したり，振り返りの場を意識して取り入れたりしていきたい。活動の中で見られた自分や友だちの良い姿を大切に位置付け，子どもの心の育ちを意識して，指導方法の工夫と改善を進めていこうと考えている。

こうした三つの課題をもとに，まずは子どもの姿，教師の自らの姿から見つめ直していく。そして多くの人と関わる中で，人それぞれ違った価値観をもっていることに気づき，一緒に活動する中で，自分の立場だけでなく，他者の立場も尊重し認め合おうとする心情や，互いの価値観の違いに折り合いをつけて乗り越え，助け合っていこうとする態度を育てていきたいと考えた。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	○
②子供	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



人権感覚の育成
互いの良さを認め合い、自他を大切にする気持ちの育成

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

《QUの結果より》

○非承認群・学級生活不満足群に属している児童の割合

1年…47.8% 2年…55.8% 3年…15.7%
4年…27.7% 5年… 5.8% 6年…52.9%

○「クラスの友だちはあなたに親切にしてくれますか？」の問いに「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた児童の割合

1年… 4.3% 2年…32.3% 3年… 0.0%
4年… 0.0% 5年… 0.0% 6年… 5.9%

《学校評価アンケートより》

○「授業では、自分の思ったことを言ったり、疑問に思ったことを質問したりできる」の問いに「あまりそう思わない」「そうおもわない」と答えた児童の割合

1年…21.7% 2年…44.1% 3年… 8.1%
4年…33.3% 5年…26.4% 6年…51.5%

以上のことから、本校の人権教育に係る課題として以下の3点を取り上げた。

- 1, 幼少のころからの固定的な人間関係に基づく先入観を変えていくこと
- 2, 子どもたちの人権教育に関わる知識を行動にまで高めること
- 3, 教師の指導方法の工夫と改善

(調査研究の内容)

子どもたち一人ひとりが、関わり合いながら活動する場を増やすことによって、新たな姿に出会う機会も増えて固定的な見方を変えていくことができるだろう。

また、他社と関わる機会が増えることで、人権感覚を問われる場が増え自ずと実行力も身につけていくだろう。

そして、教師自身が授業改善に取り組むことで、子どもたちが自信を持って自分らしく考え行動し学び続けることができるようになるだろう。

具体的には、以下の点について調査を進めていく。

○共に認め合い、学び合う人間関係作り

- ① 学級での活動
- ② 学級の枠を超えた活動

○共に認め合い、学び合う授業創り

- ① 人権に関する知的理解を図る
- ② 人権感覚を身につける授業の方法・実際
- ③ 人権に関する教師の研修

(実施方法・検証・評価)

課題1について

○各学級の生活科や総合的な学習の時間の充実

○活動の中に一人ひとりの子どもの活躍の場を意図的に仕組む

《検証・評価》年2回実施のQU検査と学校自己評価アンケート

- ・授業者が、日々の授業の中で、以下の「人権教育の視点」を意識するようになってきたことで、児童の見方・考え方から学習問題を設定し、互いの思いを出し合い、練り合う話し合い活動を通して、さらに自らの見方・考え方を再構築していく授業の流れが定着してきている。

- ①一人一人に考える時間と発言の機会をもたせ、話し合いに参加できるようにする。

- ②意見を交流し合う場面で、自分の考え以外にもさまざまな考えがあることに気づけるよう支援する。
- ③子どもたちのありのままの姿を共感的に受け止める教師の姿勢を大切にす
る。

○中心講師による研修や講演会、校長・教頭による公民館での研修会

《検証・評価》講演会や研修会の事後アンケート

- ・山下英三郎先生にご教授いただいた「修復的対話」や「R Jサークル」の手法を授業に取り入れたことで、自分の思いだけを優先してきた児童が、友だちの多様な意見に触れて折り合いをつけられるようになった。
- ・地域の方々にも人権について学んでいただく「歌と人権のつどい」を行ってきたことで、学校人権教育だけでなく、町内の社会人権教育の充実に寄与することができた。参加された方からも「人権と聞くと堅苦しい印象があったけど、楽しく人権のことを学びました」「とてもいいお話が聴けて感動しました」などの感想をいただいた。

課題 2 について

○自ら気づき行動する学習の充実

○子どもが主役となって運営する集会活動の充実

《検証・評価》児童や保護者による学校評価アンケート、Q U

- ・学級主体のS S Tや対人関係ゲームを取り入れた学習や、保育園との交流学习、学級の枠を越えた姉妹学年での読み聞かせやペア歯みがきなどの交流学习を通して、互いに相手を思いやる意識やホスピタリティの向上が見られる。
- ・児童会本部会主催で、全校でゲームを楽しむ「仲よし集会」や児童会目標のふりかえりを行う「全校集会」、担当学年を決めて児童の思いを大切につくっていく「音楽集会」などを、年間を通して継続して実施してきたことで、自分の思いをさまざまな場面で語れる児童が増えてきている。
- ・今後は、個別の人権課題の学習を充実させていくことが課題としてあげられている。

課題 3 について

○人権教育の視点に立った授業づくりの推進

○中心講師の招聘による教職員の人権感覚を高める研修

○インクルーシブ教育の推進

《検証・評価》児童や保護者による学校評価アンケート、教師の勢力資源分布調査

- ・中心講師の山下英三郎先生に年間を通してご指導いただく中で、修復的対話やR Jサークルについて学ぶことができ、日々の授業や授業研究会でもその手法を取り入れて実践を積み重ねてきた。その結果、教職員の中に毎回の授業の中で以下の「人権教育の視点」をきちんと意識した授業が行われるようになった。
- ・外部講師によるS S Tの研修や対人関係ゲームの職員研修を生かして、授業に取り入れることで、インクルーシブ教育の充実を図ることができた。
- ・学校評価アンケートに、保護者から「先生方は、一人一人の発言をしっかりと聞いてくれてありがたい」「先生方が、子どもの話をじっくりきく姿勢がよい」などの評価をいただいている。
- ・教師の勢力資源測定でも、昨年度よりも「教師の魅力優位型」の割合が高まっている。

《QUの結果の推移より》

1～3年	群・観点	全国平均	昨年度第1回	今年度第2回
学級満足度尺度 各群別の割合	学級生活満足群	41%	30.3%	36.8%↗
	侵害行為認知群	17%	27.0%	20.0%↘
	非承認群	19%	13.3%	18.0%↗
	学級生活不満足群	23%	28.7%	25.2%↘
学校生活意欲 観点別の割合	友達関係	9.8	9.9	9.9→
	学習意欲	9.9	10.3	10.4→
	学級の雰囲気	10.3	10.7	10.3↘

△学級満足度尺度の数値は概ね向上しているが、全国平均には及ばないのでさらに人権教育の視点に立った実践を積み重ねる必要がある。

4～6年	群・観点	全国平均	昨年度第1回	今年度第2回
学級満足度尺度 各群別の割合	学級生活満足群	39%	50.0%	73.0%↗
	侵害行為認知群	18%	3.0%	7.3%↗
	非承認群	18%	34.7%	9.3%↘
	学級生活不満足群	25%	12.3%	10.7%↗
学校生活意欲 観点別の割合	友達関係	9.9	10.4	11.0↗
	学習意欲	9.5	9.7	10.1↗
	学級の雰囲気	9.7	9.8	10.7↗

○学級満足度尺度の数値が大きく全国平均を上回っている。学級生活意欲も向上が見られるので、この傾向を維持できるよう実践を重ねていきたい。

《学校評価アンケートより》

○「授業では、自分の思ったことを言ったり、疑問に思ったことを質問したりできる」の問いに「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童の割合

()内は前年度の数値

1年…15.8% 2年…20.8% (21.7%) 3年…47.1% (44.1%)
4年…15.3% (8.1%) 5年…41.7% (33.3%) 6年…20.6% (26.4%)

○「授業中、友だちや先生は、自分の意見を聞いてくれる」の問いに「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童の割合

()内は前年度の数値

1年… 2.6% 2年…12.5% (4.2%) 3年… 2.9% (26.5%)
4年… 0.0% (2.7%) 5年… 5.6% (5.5%) 6年… 0.0% (0.0%)

(2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
4月4日	松本ろう学校サポート事業「ミミサポ」研修会 飯尾先生による難聴児童への接し方に係る研修	教職員16人
4月10日	紹介式 (安心の家・いい町まもり隊)	教職員16人
4月18日	人権教育支援研修会 人間関係づくり (修復的対話・R Jサークル等) に係る研修を実施 講師:山下英三郎 氏 (日本社会事業大学大学院特任教授)	教職員16人
5月2日	人権の花贈呈式	全校児童205名 全職員 人権擁護局他5名
5月7日	仲よし集会①	全校児童205人 全職員

5月10日	全校集会① 縦割り班ごとに児童会目標「仲よしで 他喜力あふれる本郷小」の達成に向けてどんな活動ができるかを話し合った。	全校児童205人 全職員
5月15日	幼保小連絡会 1年生の授業を保育士が参観 児童について意見交換	教職員10人 民生児童委員13名
5月23日	民生・児童委員さんとの懇談会 学校・家庭・地域との連絡・相談・連携を図る	教職員7人
5月24日	人権教育授業研究会（係内） 6年1組道徳「ばかじゃん！」	地域講師1人 5学年36人教職員1人 3学年34人教職員2人 4学年39人教職員2人
6月5日 7日	自然写真家西村豊先生の「春の自然観察教室」 学年ごとに2時間続きで、写真家の西村先生を講師に迎えて春の自然観察を行う	教職員7人
6月7日	人権教育授業研究会（全校） 5年1組道徳「1秒の言葉」	教職員16人
6月8日	児童理解と支援について職員研修 講師：スクールカウンセラー山崎寿子さん	
6月11日	仲よし集会②	全校児童205人 全職員
6月11日 ～22日	ホール給食旬間（年間2回） 全校一斉に縦割り班で協力しながらホールで給食	全校児童205人 全職員
6月13日	南諏同学年会研究授業（1・2年生） 授業を通して、子どもの姿から人権教育を学ぶ	町内教職員10人 2年児童24人
6月14日	ソーシャルスキルトレーニングについて職員研修 講師：信州大学教育学部高橋史准教授	教職員16人
6月19日	西伊豆町交流事前学習会 境小と交流しながら本番の計画を立てる	5年生36人 教職員2人
6月20日	QUの意義と結果の読み取り方について職員研修 講師：本校教頭中村新治	教職員15名
6月21日 ～29日	第1回QU旬間 （学級内の人間関係）検査を全校で実施	
6月23日	P T A親子早朝作業① 児童、保護者、教職員で作業を分担し、校内環境整備を実施	全校児童205人と保護者 教職員16人
6月30日	校内音楽会 地域の方を招待し、平和や思いやりをテーマに合唱や合奏を発表	全校児童 全職員
7月4日	人権教育授業研究会（全校） 4年1組道徳「花さき山」（思いやり） 指導者 南信教育事務所指導主事1名	教職員16人 研究冊子：20部
7月5日 10日	自然写真家西村豊先生の「夏の自然観察教室」 学年ごとに2時間続きで、写真家の西村先生を講	6学年34人教職員1人 3学年34人教職員2人

18日	師に迎えて夏の自然観察を行う	4学年39人教職員2人 1学年38人教職員3人 2学年24人教職員3人
7月9日	仲よし集会③	全校児童205人 全職員
7月10日 11日	5年西伊豆町交流 境小5年児童とともに西伊豆町の児童と交流	5学年36人教職員4人
7月20日	立場川を美しくする会 警察ボランティア、地域の方々、PTAの方々と 立場川の清掃	全校児童205人 教職員16人地域8人 PTA役員12人
7月28日	富士見オッコー祭り ドッジボール大会、踊り連コンテストに参加 町の大人や子どもらとの交流	3, 4, 6学年児童107人 教職員4人 保護者多数
8月20日	Q U・教師の勢力資源測定の活用についての職員研修	教職員16人
8月27日	仲よし集会④	全校児童205人 全職員
8月28日	人権教育授業研究会（係内） 1年1組道徳「おうい。あそぼう。」	教職員7人
8月28日	歌と人権のつどい（町社協敬老会） 町社協の依頼を受けて、校長、教頭が出向いて、 敬老会の中で歌を楽しみながら人権について考える会を実施	教職員2名
8月29日	個別の指導計画及び支援計画の検討（職員研修）	教職員16名
8月31日	編笠山登山 6年生と保護者ボランティア及びガイドとの交流 、他者との関係・協力・相互の協力による登山学習	6学年34人教職員3人 保護者ボランティア 登山ガイド2人
9月9日	P T A親子早朝作業② 児童、保護者、教職員で作業を分担し、校内環境 整備を実施	全校児童205人と保 護者 教職員16人
9月22日	運動会 5・6年生が来入児の競技を準備・支援する	5・6年係20人 来入児30人
9月27日	自然写真家西村豊先生の「秋の自然観察教室」 学年ごとに2時間続きで、写真家の西村先生を講 師に迎えて秋の自然観察を行う	1学年38名教職員3名
10月2日	人権の花を囲む会 大切に育ててきた人権の花の活動について振り返 る集会を実施	全校児童205人 全職員 人権擁護局他5人
10月10日	全校集会② 縦割り班ごとに児童会目標「仲よしで 他喜力あ ふれる本郷小」の達成状況や今後どのような活動 をしていくかについて話し合った	全校児童205人 全職員
10月11日	地域・祖父母参観 通常の授業の参観と祖父母や家族とともに楽しむ 活動を行った。	全校児童205人 全職員

10月12日	スピークアップ・フェスタ（英語交流会） 全校縦割り班で、校内に設置したブースを訪ね、英語のゲームやクイズを楽しみながら諸外国の文化を学ぶ	全校児童205人 教職員16人 ELT10人
10月15日	3年保育園との交流 春からずっと作り続けてきたフィールドアスレチックに保育園児を招待して交流 仲よし集会⑤	3学年34人教職員2人 保育園児20人 全校児童205人 全職員
10月15日 ～26日	第2回Q U旬間 （学級内の人間関係）検査を全校で実施	全校児童
10月17日 19日 22日 26日	自然写真家西村豊先生の「秋の自然観察教室」 学年ごとに2時間続きで、写真家の西村先生を講師に迎えて秋の自然観察を行う	6学年34人教職員1人 3学年34人教職員2人 4学年39人教職員2人 5学年36人教職員1人 2学年24人教職員2人
10月24日	3年保育園との交流 春からずっと作り続けてきたフィールドアスレチックに保育園児を招待して交流	3学年34人教職員2人 保育園児20人
10月24日	職員研修「修復的対話（コンファレンス編）」 講師：山下英三郎氏 （日本社会事業大学大学院特任教授）	教職員16人
10月31日 ～ 11月16日	ホール給食旬間（年間2回） 全校一斉に縦割り班で協力しながらホールで給食	全校児童205人 全職員
11月1日	なかよし月間開始（～30日） 仲よしと他喜力いっぱいの木を育てよう集会 児童会本部主催でいじめのない他喜力があふれる学校にするために考える集会を実施	全校児童205人 全職員
11月6日	平成30年度文部科学省人権教育研究指定校発表会 ◇授業・児童集会の公開（参観日に合わせて） 仲よし集会⑥ 4年1組道徳「命」 指導者 南信教育事務所指導主事1名 ◇人権教育講演会 講師：山下英三郎氏 （日本社会事業大学大学院特任教授）	参加者43人 全職員 全校児童205人
11月12日	仲よし読み聞かせ会 学校図書館指導員がいじめをテーマに読み聞かせ	全校児童205人 全職員
11月16日	焼き芋集会 各学級で収穫したさつまいもを姉妹学級で焼いて食べて、遊んで交流会をする	全校児童205人 全職員
11月17日	P T A親子早朝作業③ 児童、保護者、教職員で作業を分担し、校内環境整備を実施	全校児童205人 保護者 教職員16人
11月21日	授業参観 全学級で人権教育の授業を実施	全校児童と保護者 全職員

	PTA学習会 北極圏の厳しい自然とそこで暮らす人々について のお話を聴き多様性について学ぶ 講師：佐藤秀明 氏（写真家）	
11月26日	児童会まつり 各委員会がブースを企画運営 縦割り班で各ブースを回りゲームなどを楽しみながら交流する	全校児童205人 全職員
11月28日	宮越陽子さんのお話を聴く会 宮越由貴奈さんが書いた「命」の詩について、全 学級で学習し、そのまとめとして由貴奈さんのお 母さん陽子さんのお話を聴く	全校児童 205 人 全職員
12月3日	仲よし集会⑦	全校児童 205 人 全職員
12月8日	諏訪子ども人権のつどい 人権の花運動に全校の中心になって取り組んだ飼 育園芸委員会の代表児童が参加し、実践発表	代表児童 3 名
12月21日	5年収穫祭	5 学年 36 人 保護者 全職員
1月8日	特別支援教育に関する職員研修	教職員 16 人
1月10日	全校集会③ 縦割り班ごとに児童会目標「仲よしで 他喜力あ ふれる本郷小」の達成状況や今後どのような活動 をしていくかについて話し合った	全校児童205人 全職員
1月15日 18日	自然写真家西村豊先生の「冬の自然観察教室」 学年ごとに2時間続きで、写真家の西村先生を講 師に迎えて秋の自然観察を行う	5学年36人教職員1人 6学年34人教職員1人 1学年38名教職員3名 2学年24人教職員2人
1月23日	Q U 活用と個別の指導計画の見直しに係る職員研修 2回のQ Uの検査結果を比較し、客観的な評価の 参考とする 個別の指導計画の見直しを進める	教職員 16 人
2月4日	仲よし集会⑧	全校児童205人 全職員
2月6日	来入児一日入学(来入児と1・2年生との交流)	1・2 学年児童 62 人 担当職員 6 人
2月22日	研究まとめの会（中旬） 研究紀要の検討 研究紀要の印刷・配布	教職員 16 人
2月25日	仲よし集会⑨	全校児童205人 全職員
2月27日	感謝の会（安心の家・いい町まもり隊の方にお礼）	全校児童205人 全職員
3月	学習指導部・研究推進部 今後の研究の方向について協議・検討を行う。	

